



## 【本年度の重点目標】

めあてに向かって主体的に努力する子どもの育成  
(根気強く あきらめないで)



## 資源回収・愛校作業 ありがとうございました

8月18日は、資源回収・愛校作業でしたが保護者のみなさまにおかれましては、早朝よりの作業ありがとうございました。

昨年は快晴でとても暑かったような記憶がありますが、今年は天気恵まれ、太陽を隠した雲が空を覆い、曇り空での作業となりました。そのため、非常に作業がしやすく、順調に進んだような気がします。

資源回収では、地区によっては保護者の数が少なく、地域の方々のご協力を得ながら実施にこぎつけているところもあるようです。ご協力に感謝します。

収益金は、PTAの役員・理事さんに相談しながら子どもたちの教育のために有効に使わせていただきます。

愛校作業は、保護者約110名（山村留学生の保護者を含む）、国際ボランティアの学生13名、その他のボランティア（卒業生やその保護者等）、教職員、児童等、総勢250名近くの方々に参加していただきました。特に例年多くの保護者の方に参加していただき、みなさまの星野小学校に対する思いを感じているところです。

また、今年も環境整備委員会のみなさんに、除草剤を事前に散布していただいたおかげで運動場の除草が少なくて済みました。

参加していただいたすべての方々のおかげで、今後も素晴らしい環境のもとで、学習・勉強に励むことができます。11月の発表会にも、他校の先生方を安心して迎えることができます。重ねてお礼を申し上げます。

発表会では子どもたちが学習に集中して取り組む姿を見せてくれることでしょう。



## 平和記念式典 台風の影響で中止に

8月6日は、広島に原爆が投下された日です。

「星野ふるさと公園」内の「平和の塔」には原爆投下直後、叔父の安否を求めて広島入りした星野村出身の故 山本達雄さんが残り火を懐炉に移して持ち帰った火が灯されています。八女市星野村では毎年この塔の下で平和記念式典を行っていますが、残念ながら今年は台風のために中止になりました。本校からは代表して6年生の原田万喜さんが誓いの言葉（作文）を述べる予定でしたが残念でした。全校集会の折に発表してもらう予定です。以下その作文を記載します。

### 平和を伝える

みなさんは、子どもや友達、家族に、戦争があったことを伝えたことがありますか。私はこれまでを振り返ってみると「伝える」ということをしていませんでした。私は、戦争を経験していません。だから、戦争で受けた苦しみ、痛さがわからないのです。でも、想像してみると、その苦しみ痛さというものは、私の想像より何倍、何十倍というはかりしれないものだろうと思います。しかし、その恐ろしい争いが、この世界のどこかで、まだ起こっているのです。その人を苦しめ、不幸にしてしまう戦争をなくすために、戦争というものがどんなに醜いものかを、戦争を知らない人達や若い世代の人に伝え、このような戦争が起こらないようにしなければいけません。

今から、七十四年前に、日本は他の国と戦争をしていました。その頃の日本は、勝つことだけを考えていました。午前八時十五分世界で初めて原子爆弾が広島に落とされました。この一発の爆弾によって、約十四万人の人が被害に遭い、広島は町は一瞬で焼け野原になりました。

「誰か、誰か水を下さい。」  
と裸足で駆けまわっている人や  
「熱い、熱い」  
と皮膚をたらして歩く人がたくさんいたそうです。

星野村から出征し、広島で軍務についていた山本達夫さんは、原子爆弾が落とされた時に、汽車に乗っていました。すると、ぴかっと光ったと同時にものすごい熱風が汽車を襲いました。奇跡的に助かった山本さんが汽車から出ると、辺り一面炎に包まれていました。広島には書店を営んでいるおじさんがいました。山本さんは、必死の思いでおじさんを探しましたが見つかることはできませんでした。戦争が終わり星野村に帰る日、山本さんはおじさんが営んでいた書店があったところの地下で燃えていた火を、おじさんの形見として星野村に持ち帰ることにしました。山本さんはその火をおじさんを奪った「恨みの火」として灯し続けました。しかし、時間が経つにつれ「うらみではないかん。うらみをはらすとまたうらまれ、戦は繰り返される。戦をなくすしかない」と考えられたそうです。その山本さんの心が、「平和を願う火」としてこの平和の塔に灯されています。

二度とこのような悲惨で残酷な世の中にならないためには、人を差別したり、恨んだり、復讐の心を持つたりしないことだと思います。人と人同士が助け合い、支え合い、尊重しあうことが大切だと思います。私たちの周りでも、言い争いやけんかが起きます。それは、戦争につながる、小さな一つだと思います。だから、一人一人が、思いやりの心を持ち、手と手を取り合って、協力していかなければならないのです。恨みや憎しみを持ち続けても何も解決しません。違いを認め合い、相手の立場になつて考えることが平和だと思えます。

争いがなく、友達と楽しく幸せに生活できるように、よく学習し、戦争について知り、戦争について考え、私達より後の世代もその先もずっと平和であるようにこれから伝えていきたいと思えます。

令和元年八月六日

八女市立星野小学校 六年 原田万喜